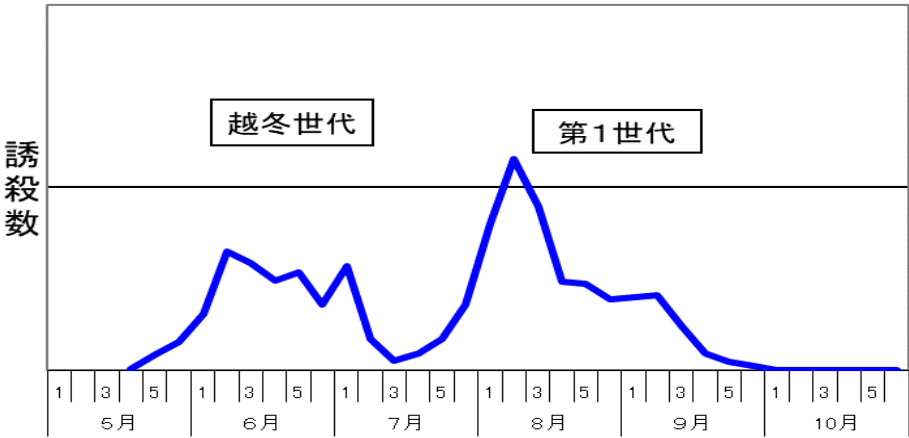


モモシンクイガのフェロモントラップ誘殺消長（令和7年（2025年）調査）

病虫害防除部

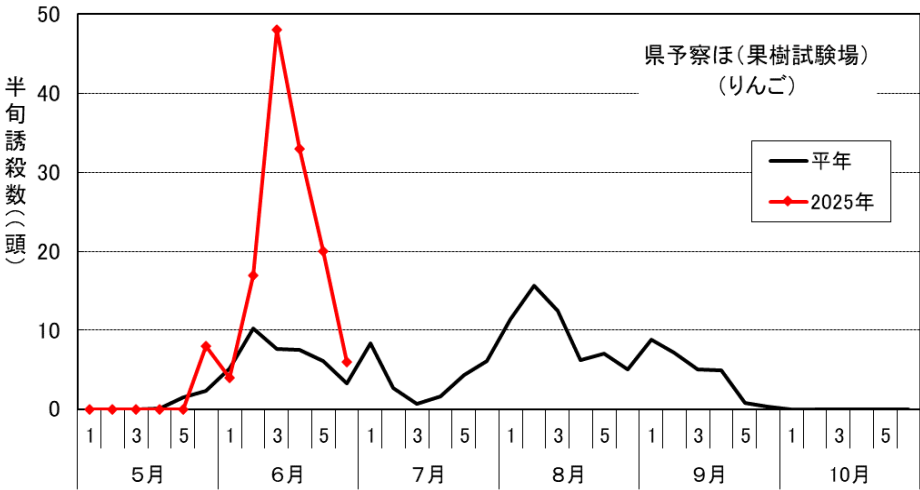
過去10年間の消長模式図（果樹試験場内 試験場予察ほ）



【発生生態と防除のポイント】

- ・標高600m以下の平地では年2回が大半である。
- ・準高冷地及び日照の少ない山沿いでは年2回発生が主体で、1回発生が混在する。
- ・越冬世代成虫は6月上旬から始まり、7月に入ると盛んになり、8月上旬まで続く。産卵は7月になると急増し、産卵最盛期は7月中下旬で、大半はがくあ部に産みつけられる。
- ・第1世代成虫は8月上旬から発生し、発生最盛期は8月中～下旬である。産卵最盛期は、成虫の発生期とあまり変わらない。
- ・防除はふ化幼虫の食入防止を中心とする。6月下旬から概ね2週間間隔で9月上旬まで防除する。特に7月中下旬と8月中下旬は重要な防除適期である。

○県予察ほ（須坂市 果樹試験場）



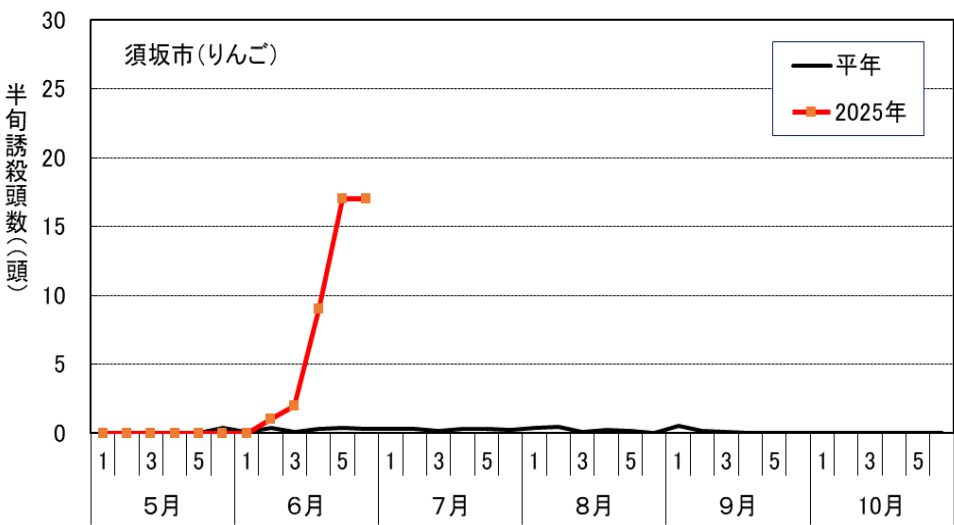
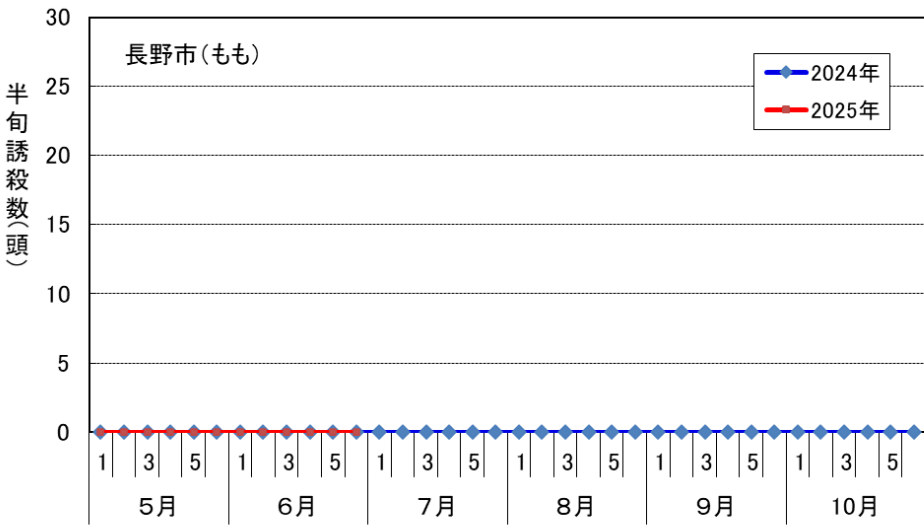
【調査地点】（標高約350m）

- ・須坂市 長野県果樹試験場（りんごほ場）
- ・平年は2015年～2024年の平均値

【コメント】

- ・5月下旬から誘殺が増え始め6月第3半旬にピークを迎えた。誘殺頭数は平年よりかなり多い。
- ・6月第3半旬以降は減少が続いている。

○長野市・須坂市（病虫害防除部）



【調査地点】（標高約370m）

- ・長野市（ももほ場）
- ・2024年からほ場変更したため、平年値なし。

【コメント】

- ・他の設置場所ではみられるモモシンクイガも、ここは6月第6半旬時点でも誘殺が観測されていない。

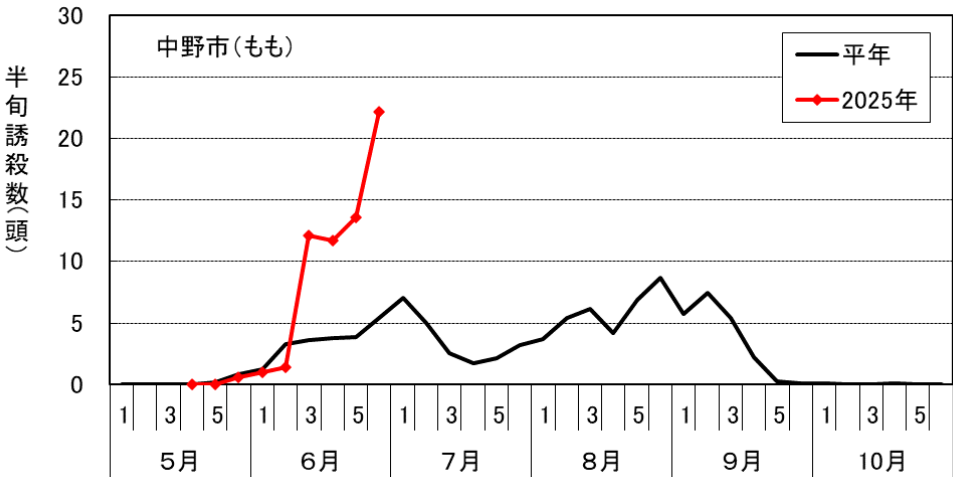
【調査地点】（標高約370m）

- ・須坂市（りんごほ場）
- ・平年は2015年～2024年の平均値

【コメント】

- ・5月中は誘殺が観測されなかったが、6月に入り誘殺されるようになった。
- ・これまであまり観測されない地点であったが、6月第3半旬以降は誘殺が増え、第5、第6半旬には20頭弱が観測された。過去10年で最多の半旬誘殺数となっており、平年より大幅に多い。

○中野市（北信農業農村支援センター調査協力）



【調査地点】（標高約370m）

- ・中野市（ももほ場）
- ・2025年は5月中旬に設置

【コメント】

- ・6月第3半旬に入って誘殺数が増加した。第4半旬以降も増加傾向にあり、平年より大幅に多い状況が続いている。